

「ミモザ」

廣瀬清一 事務局

日差しに少しずつ春を感じるようになり、ふらふらと散歩していると、黄色く丸っこい可愛い花を鈴なりに咲かせたミモザの鉢植えをあちらこちらで見かける。

ミモザは、春の訪れを告げる花としてフランスやイタリアで親しまれている。



3月8日に、日頃の感謝を込めて美しいミモザの花を女性に贈るイタリアの習慣を真似て、日本でも「ミモザの日」のイベントが各地で開かれるようになった。

茹で卵の黄身を裏ごしするとふわふわしたミモザの花のようになる。これを使ったミモザサラダ、ウフミモザ、そしてシャンパンとオレンジジュースを合わせたミモザ色の「カクテルミモザ」などとミモザを冠にした料理や飲料はたくさんある。



2月になると南仏のコート・ダジュールの周辺の丘陵地帯は、ミモザの花で黄色に覆われる。ボルム・レ・ミモザからグラスまでの130kmは、ミモザ街道と呼ばれ、途中のマンドリュウ・ラ・ナールでは、ミモザで派手に飾られた山車のパレードで賑わう「ミモザ祭り」が毎年開かれる。

この頃になると、香料の聖地、グラスの香料会社の倉庫は、黄色いミモザの花でいっぱいになる。ミモザの花は香りが失われやすいので抽出作業は昼夜兼行で行われる。グラスの花暦はこうしてミモザで始まる。

ミモザの花は、かすかにイリス的なパウダリー感と蜂蜜っぽいニュアンスのあるややリッチなフローラルな香りがする。

ミモザの主な原産地はオーストラリアとアフリカである。このミモザは、19世紀にオーストラリアのワルトがイギリスとフランスに伝わり、その後各地に広がったものである。

ワルトは品種が多く、この時持ち込まれたワルトの花や葉がミモザに似ていたのでミモザアカシア、ミモザなどと呼ばれて、次第にミモザの名が広く一般化したようだ。正しくはアカシアである。

「ミモザ Mimosa」は、オジギソウの学名で、ギリシャ語の「mimos(人まね)」に由来している。

オジギソウは、葉が触れたり振動を感じたりすると閉じる不思議な植物としてよく知られている。アカシアとは別のものである。

ところで、ブラジル原産のオジギソウは、日本には江戸時代後期に渡来している。耐寒性が低いため日本の気候には合わず、日本の園芸では一年草扱いにすることが多い。花屋では、オジギソウの切り花はほとんど扱われていない。

話をミモザに戻すと、日本でもミモザの名前は誤ったまま使われている。実際は「ギンヨウアカシア *Acacia baileyana*」、「フサアカシア *Acacia dealbata*」などのアカシアを指す。学名の「Acacia」は、ギリシャ語の「akazo(トゲのある)」に由来する。

さらに複雑なことに、日本におけるアカシアの呼称は、本来のアカシアではなくほとんどの場合ニセアカシアを指す。「ニセアカシア *Robinia pseudoacacia*」は、アメリカ原産である。

「ニセアカシア」は、5～6月に垂れ下がって咲くフジの花に似た白色の花を咲かせる。明治に日本に渡来している。なぜか当初「アカシア」と呼ばれていた。ところが、遅れて本来の「アカシア(ネムノキ)」が渡来して、区別するために「ニセアカシア」と呼ぶようになったという。

ところが、本来の「アカシア」は、オーストラリアやアフリカなどの乾燥地に繁殖していて、湿った日本の風土には合わず、さほど広がらなかった。

このような状況で「ニセアカシア」と「アカシア」の名前の混乱は続いている。

日本でアカシア蜂蜜として販売されている蜂蜜は、「ニセアカシア」の花からの蜂蜜である。アカシア蜂蜜の特徴は、クセがなく、甘みがすっきりとした上品な味わいである。アカシア蜂蜜の名称は、日本にとどまらず多くの国や地域で通用している。

街路樹などからアカシアの名を冠した地名や通り名も、実際に植えられている樹木は「ニセアカシア」であることが多い。歌謡曲や小説などの中に出てくる「アカシア」も多くは「ニセアカシア」である。

名前に「ニセ」が付くのは、やはり印象がよくないのかもしれない。

黄色い花のミモザで作るリースやスワッグは、部屋の雰囲気を変えるアクセントになる。

いずれにしても、ミモザは言葉の響きもよく、明るい黄色は人を元気にしてくれる。

ミモザに乾杯。

参考文献

- 1) Enciclopédia de plantas 『Mimosa』
https://www.picturethisai.com/pt/wiki/Acacia_dealbata.html
- 2) レファレンス共同データベース『小説や歌に出てくるアカシア・・・』
https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000325673
- 3) 平野美紀『オーストラリアに春を告げる花「ワトル」が欧州で「ミモザ」になった話』
<https://www.newsweekjapan.jp/worldvoice/hirano/2021/09/post-29.php>
- 4) フレディ ゴズラン、グザビエ フェルナンデス『調香師が語る香料植物の図鑑』原書房 2013